

令和6年度 第2回 近江八幡市男女共同参画審議会 議事録

日時 令和7年3月4日（火）14：00～

場所 近江八幡市役所4階 第3・4委員会室

1. 開会

2. 説明事項

3. 協議事項

- ・男女共同参画2030プランの令和7年度中間見直しにかかる市民意識調査の調査結果について

事前送付資料

近江八幡市男女共同参画に関する市民意識調査アンケート調査結果報告書

資料① 目標値比較

（質疑応答）

事務局：（説明）

会 長：紙と電子の回答の割合や、回答者の年代についてはどうであったか。

事務局：市民意識調査では、有効回答数743に対して、紙回答が602、電子回答が141となった。年代が上がっていくにつれて、紙回答が多くなっている。

会 長：前回調査と比較すると若い世代の回答者が増えた。電子回答を導入した影響か。若い世代の男女共同参画意識が調査結果全体に影響を与えていると思うので、その点は留意する必要がある。若い世代の回答が増えたことは望ましい。

委 員：（報告書全体について）前回調査と比較すると微々たる数値の変化であっても、20～30年スパンで見ると大きな変化になると考える。日常生活の中でも、行政も、企業も、自治会も 男女共同参画意識は向上してきていると感じる。女性活躍も進んできており、大きな流れでとらえる必要がある。

委 員：ただ、行政の取組によって男女共同参画意識が向上してきたわけではないのではないかと感じる。社会の風潮の影響もあると思う。自由意見でも批判的な意見が多くなっていた。行政の取組を知らないという意見も目立つ。自由意見に最も市民が求めていることが表れている。

事務局：既に男女共同参画は実現できている、というような意見があることは把握している。

- 委員：若年層には男女共同参画意識が浸透してきていると感じる。高齢者の方が性別役割分業意識が強いので、ターゲットを絞って啓発していく必要がある。
- 委員：自治会単位・コミセン単位での研修が大事である。昔の方がもっと男女共同参画意識の向上へのモチベーションがあったように感じる。学校では男女共同参画について力を入れて取り組んでおり、学校でそういった教育を受けてこなかった高齢者と若年層でギャップがある。
- 委員：予算に関する意見を30代の方から寄せられている。男女共同参画が実現できていると感じる若年層もいるのではないかな。
- 会長：働く世代と高齢者世代では男女共同参画について感じる課題は異なる。働く世代にとっては家族や子どものことは目の前の問題である一方で、高齢者にとってはあまりそうではないため、男女共同参画に対する関心にも差がある。働く世代の抱える問題にもフォーカスしていく必要があると思う。
- 委員：男性の育児休業については取得期間が短いものの、企業は取得を奨励するようになってきた。昔は祖父母が赤ん坊の面倒を見て、母親が産前産後休暇6週間で働くような社会だった。今は核家族がほとんどであり、支援のニーズが変わってきている。調査結果を分析する際は、過去の社会の在り様を認めつつ批判的にならないように、変化を観察していくことが大切ではないかな。
- 会長：市として男女共同参画に関する活動をしているアピール、見える化をしていくことが必要ではないかな。
- 事務局：情報発信が弱いところはある。計画改定時には広報紙で見開き特集をするつもりではいるが、紙面の制限もあり頻繁にはなかなか難しい。
- 委員：自治会や老人クラブなどで啓発活動をしてはどうか。若い世代は学校でも取り組んでおられるので大丈夫だと思う。高齢者の多い団体をターゲットにしていくべきではないかな。
- 委員：今は学校で性別に関係なく技術科も家庭科も習うが、昔は「技術科は男、家庭科は女」という風に教育内容を分けていた。高齢者は学校で男女共同参画について学ぶ機会を得られなかった。
- 委員：自治会について、男女共同参画推進員はどの程度活動しているのか。
- 事務局：人権尊重のまちづくり懇談会と男女共同参画懇談会のそれぞれについて自治会で取り組んでいただいているが、なかなか2回集まるということが難しく、男女共同参画懇談会については、取り組めていただけていないところもある。人権の方が比較的やらなくてはならないという意識があるが、男女共同参画については実現できているとして、やっていないところもあるのではないかと考えている。
- 委員：同じ人がずっと役員を続けていることもある。同じ人にばかり学習してもらってもあまり意味がない。自治会での男女共同参画懇談会の開催方法を見直す必要があるのではないかな。
- 委員：市と市人権尊重のまちづくり推進協議会が主催となり開催している男女共同

参画市民のつどいについても、参加者数が伸びていない。市の他のイベントにブースを出展するなどしてもよいのではないか。他の団体のイベントへ赴いて啓発していくことも必要だと思う。

委員：今年度馬淵で開催された人権フェスティバルには、多くの参加者があり内容も充実していた。学区だけではあれだけのことはできない。あのよう各学区を回って、まちづくり協議会と一緒に実施するというのは非常に良いと思う。

事務局：学区と合同で行った人権フェスティバルには多くの方に参加してもらえた。男女共同参画市民のつどいについても同様の方法で開催できないか、また、他のイベント等への出張啓発についても、今後検討していきたい。

① 地域に女性リーダーが少ないことについて

委員：リーダーを引き受けるかどうかの判断には、子どもの有無が関わっているのではないか。サポートできる体制があればもっと女性が参画していくことができると思う。

会長：女性に家事負担が偏っている状況を調整できないと、女性リーダーだけ増やすことはできないと思われる。女性だけが家事も仕事も育児も自治会もというのは厳しい。

委員：自治会活動は土日が多く、平日に仕事をしている男性が週末の休日に自治会に参加するという状況が続いているのではないか。

事務局：当市職員をみると、今の若い男性職員は家事育児に参加することにあまり抵抗がないように見えるが、全体の意識としてはそうではない。男性は一人で子ども、特に赤ん坊の面倒を見ることに抵抗があるのか。

委員：母性を重視する傾向が強いのではないか。また、特に赤ん坊の時期は命に関わるようなことを避けたい気持ちがあるのかもしれない。保育園なども土曜は2時までやっているが、日曜はやっていない。

委員：自身が勤めている会社では、男性の育児休暇取得時に家事の取組状況について確認している。ごみ捨てひとつにしてもどの過程を担っているのか確認しているが、今は夫婦で同じくらいの負担で育児をしていると感じている。男性育児休業の取得を奨励するのであれば、取得者の周囲の人材確保マネジメントも事業者の責任であり、フォロー体制を整備していくことが重要である。今の20～30代の父親の家事や育児への参画に対するお手伝い感覚はかなり薄れてきている。

子どもを一人で見るのが怖いと言うが、仕事であればそうは言っていられないだろう。保育園の充実も重要だとは思いますが、子どもが親と一緒に過ごす時間も大切にしていく必要がある。休みなく園に預けることは、子どもにとって負担である。子どもにも家庭でのやすらぎ、リセットする時間が必要で

ある。

啓発には、世代にあった伝え方があるので、伝わりやすいツールを使うなど伝え方を工夫することが大切だと思う。若い人は集まって話し合うよりもズームやリモート、SNS、Youtube などの方が届きやすいだろうし、年配の方々なら集まって話すほうが伝わりやすいかもしれない。

② DV について

会 長：デート DV という用語がわかりにくいところがある。加害行為に気づく取組としてはどのようなことがあるか？

委 員：加害者の DV 行為について気づかせると、一時的に優しくなることはあるが、時間が立つと再度 DV 行為をするなど、結局繰り返してしまうことがある。また、DV について言い出しにくい雰囲気がある。DV 被害についての女性の認識も弱く、被害を受けていることを自覚できていない場合もある。情報発信が弱いのではないか。

会 長：誰にでも見られるところや、目につきやすいところに DV に関する啓発ポスターやチラシがあるとよいと思う。

事務局：DV に関する啓発としては、11 月の女性に対する暴力をなくす運動にあわせて、広報や LINE で啓発をしているほか、白雲館でパープルライトアップを実施している。今後さらに情報発信を強化していく。

4. 報告事項

- ・男女共同参画近江八幡市行動計画 令和 5 年度進捗状況調査結果

資料② 令和 5 年度行動計画進捗状況調査結果

5. その他

特になし